

[プロジェクト名]	[分野]
筑波山～霞ヶ浦周辺を対象とした地域振興を目標とする地質情報活用プロジェクト	教育・研究
[代表者]	
理学部・地球生命環境科学科・4年 小峯 慎司	
[参加者]	
<p>小峯 慎司（理学部・地球生命環境科学科・4年） 伊藤 太久（理学部・地球生命環境科学科・4年） 及川 敦美（理学部・地球生命環境科学科・4年） 黒田 真平（理学部・地球生命環境科学科・4年） 細井 淳（理学部・理学科・2年） 神 直也（理学部・理学科・2年） 上井 玄太（理学部・理学科・2年） 所 佳実（理学部・理学科・2年） 滝本 春南（理学部・理学科・2年） 井上 祥（理学部・理学科・2年） 小畑 大樹（理学部・理学科・2年） 松原 典孝（理工学研究科・宇宙地球システム科学専攻・3年）</p>	
[連携先]	
<p>対象地域：茨城県中～南部（筑波山～霞ヶ浦周辺地域） 連携先：関東鉄道株式会社、株式会社ラクスマリーナ、あたりや食堂、筑波温泉ホテル、筑波山ホテル青木屋、つくばグランドホテル、かすみがうら市郷土資料館、宝性院歩崎山長禅寺、上高津貝塚ふるさと歴史の広場、行方市観光物産館、霞ヶ浦環境科学センター、株式会社サイボックステクノロジー、ジーエスアイ株式会社</p>	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>地質情報の活用は、防災や地域開発のみならず生涯学習や観光資源開発の面からも重要である。近年、世界遺産に準ずるものとしてユネスコにより地質をメインテーマにした「ジオパーク」が提唱されるなど、世界的にも地質情報を活用しようとする動きが活発になっている。一方で、わが国においては高校における地学履修率が未だ低いなど、災害大国であるにもかかわらず地質情報の重要性が一般に認知されていない。地質情報は生活や文化と密接に関わっているものの、研究者や技術者以外には読み取り辛いものである。本プロジェクトは、地質情報を携帯端末を用いることにより活用しやすい形にし、地学教育や観光資源開発に役立てることを目的とする。さらに、従来複雑であった地質調査について、電子クリノメーターを用いて地学入門者でも可能な地質調査法を開発する。</p>	
[対象]	
<p>筑波山～霞ヶ浦周辺にはジュラ紀～第四紀の地層が分布、さらに石材として有名な稲田花崗岩が存在するなど変化に富んでおり地質学的に面白い地域である。また、首都圏からも近く、筑波山の温泉や霞ヶ浦等地質学に関連した観光名所も多く、観光客誘致には向いている地域である。以上の理由により本プロジェクトの対象地域とした。</p>	
[連携の方法と計画]	
<p>地質情報は、独自にフィールドに行き入手する。さらに、茨城県霞ヶ浦環境科学センターにも霞ヶ浦とその周辺に関する情報を提供してもらう。入手した情報は、サイボックス社が開発した携帯ホームページにアップし、外部からアクセスできるようにする。このプロジェクトはサイボックス社による携帯ホームページの試用も兼ねており、携帯ホームページ作成に関するサーバーやソフトは無償で提供してもらえる予定である。本プロジェクトは地質情報を一般に広く公開することを目的とするため、コンテンツの内容は一般の人々が理解しやすいことが重要である。電子クリノメーターはGSIから購入、地質調査に習熟していない学部2年生が試用する事によりその有効性を検証する。その結果は、GSIの技術開発や宣伝に利用される予定である。</p>	

[期待される成果]

このプロジェクトにより作成した地質情報は、地域住民の防災意識向上や生涯学習のほか、地質情報を観光資源化することにより観光客誘致にも活用できると考えられる。

[プロジェクトの成果報告]

本プロジェクトでは、まず文献調査、現地調査を独自に行い、地質情報を収集した。次に収集した地質情報を、新しい観光情報として編集し、パンフレット、ポスター、携帯サイト、ホームページとしてまとめた。次に地域の企業・団体等に本プロジェクトに対する協力・賛同を求め、配布と掲示をお願いした。

本プロジェクトにおける特筆すべき成果として、次の二点があげられる。

一つ目の成果は、地質情報を観光情報としてまとめ直し、これまでに類を見ない“地質観光”という新しい観光の形を、パンフレット・ポスター・ウェブサイトというアウトプットによって県内地域に提案することができた点である。

二つ目の成果は、本プロジェクトによって培われたノウハウや、得られた連携先とのつながりを利用する事で、将来的に、県内・県外諸地域を対象として設定し新たな地質観光情報を作成していく事が可能となった点である。

連携先のうち、株式会社サイボックステクノロジーには、携帯サイト作成に際して全面的な協力をいただいた。以下の企業・法人には、パンフレットの配布、ポスターの掲示等についてご協力をいただいている。

- 関東鉄道株式会社：パンフレット 2,000 部について、筑波市地域を走る路線バス車内、またつくばエクスプレスつくば駅と筑波山を結ぶシャトルバス車内にての配布。
- 株式会社ラクスマリーナ：パンフレット 20 部の配布。
- あたりや食堂：パンフレット 100 部の配布。
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場：パンフレット 400 部の配布、またポスターの掲示。
- 筑波温泉ホテル：パンフレット 400 部の配布。
- 筑波山ホテル青木屋：パンフレット 400 部の配布。
- つくばグランドホテル：パンフレット 400 部の配布。
- かすみがうら市郷土資料館：パンフレット 200 部の配布。
- 宝性院歩崎山長禅寺：パンフレット 100 部の配布。
- 行方市観光物産館：パンフレット 200 部の配布。
- 霞ヶ浦環境科学センター：パンフレット 300 部の配布、またポスターの掲示。

得られた成果によって、プロジェクトの目的であった“地質情報を介して茨城の成り立ちを知ってもらい、地質情報の重要性と有用性を一般に認識してもらう”ためのツールを作成し、また今後の発展に向けての基盤を築く事ができた。